

都市再生整備計画(第5回変更)

ほんごうしゅうへんちく
本郷周辺地区

かながわけん えびなし
神奈川県 海老名市

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	海老名市	地区名	本郷周辺地区	面積	257 ha
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度				

目標							
大目標:安心と活力をもつまちの創造							
目標1	道路交通網の整備により交通アクセスの利便性を高める。						
目標2	地域の防災設備の整備を行い、地域の防災体制を強化する。						
目標3	生活環境の改善により地域の利便性・満足度を向上させる。						

目標設定の根拠							
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>○まちづくりの現況</p> <ul style="list-style-type: none"> 海老名市は、神奈川県のおお中央に位置し、鉄道も3路線が乗り入れており、鉄道利用により新宿まで60分、横浜まで30分と立地条件に恵まれている。 海老名市は昭和30年海老名町と有馬村の合併により市を形成してはいるものの北部(旧町域)に都市機能が集積し、南部(旧村域)は海老名耕地と呼ばれる農地が広がり、市の農業生産活動を担う地域となっているため公共施設等の整備が遅れている状況にある。 昭和50年には、59,000人余りであった当市の人口も、平成17年6月には124,000人を超えており、質の高い生活環境を整える必要があると共に、災害時において多くの市民を救援する施設等の充実を図るべく整備を進めている。 本地区は、市街化区域と市街化調整区域にまたがっており、市街化調整区域は優良農地が広がっており都市近郊農業として農地保全を図るとともに、市街化区域の宅地化が進んでいることから、地域防災の充実や道路交通網の整備の必要がある地区である。 <p>○まちづくりの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成19年度に供用開始を目指す、さがみ縦貫道路(仮称)海老名北インターチェンジのアクセス機能を確保するため、県・市で役割分担を定めアクセス道路の整備に着手している。 災害時において多くの市民を救援する施設等の充実を図るべく広域避難所の耐震補強等の整備を進めている。 本市では、近年の異常気象及び東海地震、南関東地震による災害や多発する犯罪、交通事故などに対応するため、平成17年度を「防犯、防災、交通安全の年」と位置づけ、「えびな安全・安心2005」と銘打ち、防犯、防災、交通安全に係る既存事業の拡充及び新設などにより、市民、各種団体、事業所等と共同して全市的に事業展開を図り、関係する機関、団体との連携を強化し、広範かつ多層的な活動を推進している。 							

課題							
<p>①本地区は海老名駅からのアクセス道路が不十分であり、東名高速道路により分断されている北部地域との連携を強化するための対処が必要となっているとともに、首都圏の慢性的な渋滞解消の一環として整備が進められている圏央道の一部となる「さがみ縦貫道路」の整備が進み平成21年度には「(仮称)海老名北インターチェンジ」の供用に起因する大規模な発生交通に対応する新たな道路交通網の整備が必要である。</p> <p>②本地区では、災害時の避難ルートや地域防災計画に位置付けられている広域避難所などの整備が不十分であり、これらの機能強化を行う必要がある。</p> <p>③少子高齢化社会に対応するため高齢者支援を拡充し地域に貢献する施設づくりが必要である。</p> <p>④市民意識調査では、本地区において交通アクセスや高齢・障害者福祉施設等が他の地区に比べ必要性の高い地区となっている。</p>							

将来ビジョン(中長期)							
<ul style="list-style-type: none"> 第三次総合計画では、「ゆとりと活力あるまちえびな」を将来都市像とし、基本構想で「安心して快適に暮らせるまち・快適環境都市」、「ゆとりのある住みよいまち・生活拠点都市」などの基本目標を掲げ、交通網の整備や防災機能の充実を中心にまちづくりに取り組んでいる。 平成9年度策定の都市マスタープランでは、本地区を含む南部地区では、「計画的な市街地の形成」、「地区の発展を担うべき副次核の形成」、「鉄道・道路等の交通機能の強化」を推進するため、地区づくりの目標を「自然と活力の芽吹くまち」と定め、活力ある生産環境の形成を図り、また、自然と共生しながら、暮らしに潤いを感じられる市街地環境の形成を目指している。 							

目標を定量化する指標							
指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
1. 海老名駅から有馬小・中学校間のアクセス時間	分	海老名駅と有馬小・中学校までの所要時間	道路網の整備を行い、海老名駅と有馬小・中学校とのアクセス時間短縮を図る。	20	平成18年	10	平成22年
2. 防災拠点の整備	%	地域防災計画に位置付けられた避難施設の被災者収容率	避難施設の耐震補強を行い、災害時の被災者収容率の向上を図る	91	平成18年	97	平成20年
3. 生活の便利さ・満足度	%	住民アンケートによる生活利便・満足度	道路交通網整備や防災対策及び高齢者支援等の充実により住民満足度の向上を図る	37	平成17年	45	平成22年

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針

方針に合致する主要な事業

整備方針1（道路交通網の整備）

- ・南北に分断されている地域のアクセスルートとして新たな道路交通網の整備を行う。
- ・道路交通の交通渋滞を解消させるための外周道路を整備し分散させる。

道路事業（基幹事業／（仮称）南伸道路整備）、道路事業（基幹事業／市道500号線70号橋架替事業）、事業活用調査（提案事業／エリア内交通量調査）

整備方針2（防災拠点の整備）

- ・防災拠点の整備及び浸水対策などにより、災害に強いまちづくりを図る。
- ・外周道路の整備により災害時の避難ルートや延焼遮断帯の整備を行い防災機能の強化を図る。
- ・地域分断の要因を解消することで、災害時の避難路や救急経路を確保する。
- ・広域避難所耐震補強については、地域防災計画に広域避難場所および避難所として位置づいている施設の整備を行う。
- ・医療救護所非常用電源設備については、地域防災計画に医療救護所および避難所として位置づいている施設の整備を行う。
- ・防災備蓄倉庫については、地域防災計画に防災備蓄倉庫として位置づいている施設の整備を行う。
- ・防災行政無線屋外子局設置については、地域防災計画に防災行政無線局固定系子局として位置づける予定の施設の整備を行う。
- ・耐震性貯水槽設置については、地域防災計画の給水計画に位置づける予定の施設の整備を行う。

道路事業（基幹事業／（仮称）南伸道路整備）、道路事業（基幹事業／市道500号線70号橋架替事業）、下水道事業（基幹事業／永池川直接流出区域浸水対策事業）、地域生活基盤施設（基幹事業／広域避難所耐震補強、医療救護所非常用電源設備、防災備蓄倉庫、防災行政無線屋外子局設置、耐震性貯水槽設置、消防団器具置場整備事業）、関連事業（永池川直接流出区域排水路整備事業）

整備方針3（生活環境の改善）

- ・生活道路整備や高齢化対策等において生活環境の改善を図る。
- ・高齢化社会に対応するため高齢者の社会参加の促進を図り就労機会を提供するため高齢者等の支援施設を整備する。
- ・地域の高齢者等が交流する場を提供し、多くの方がふれあう機会を促す。
- ・地域の情報板を設置し、ゆとりある環境づくりを図る。
- ・公共交通不便地域解消に向けた調査を実施する。
- ・防犯対策による安心・安全な歩行空間を確保する。

道路事業（基幹事業／（仮称）南伸道路整備、市道500号線70号橋架替事業、市道751号線道路修繕事業、市道45号線道路修繕事業、市道41号線道路修繕事業、市道752号線道路修繕事業、市道774号線道路修繕事業）、地域生活基盤施設（基幹事業／情報板整備事業）、地域創造支援事業（提案事業／（仮称）高齢者生きがい会館整備事業、防犯灯設置）、事業活用調査（提案事業／コミュニティバス試験運行調査）

その他

○市民意識調査の実施について

本市では、市政に対する市民意識の傾向を把握するとともに、市民の意見・要望を的確にとらえて、市の実施計画や施策事業に反映させるために、隔年度に「市民意識調査（市政アンケート）」を実施しております。調査内容としては、「道路整備の推進」、「災害対策の強化」、「生活環境の保全」などについて行い、今後の市政への直接的な市民参加を促進するとともに、本事業の事後評価に対する基礎資料として活用します。

○消防団器具置場整備事業については、防災機能の向上を図る施設として整備を行う。

都市再生整備計画の区域

ほんごうしゅうへんちくかながわけんえびなし 本郷周辺地区(神奈川県海老名市)	面積	257 ha	区域	海老名市上河内、中河内、杉久保、本郷の各一部
---	----	--------	----	------------------------

